令和６年度中山間「ふるさと支援隊」活動報告書（概要版）

活動テーマ

飯能の里山資源を活用した
アウトドア・スポーツ・ツーリズムへの挑戦

飯能市原市場地区　駿河台大学

１　活動目的

里山資源を活用した「体験」を提供するアウトドア・スポーツ・ツーリズムを盛り上げる活動を進め、ひいては原市場・名栗をアウトドア・スポーツ・ツーリズムの聖地にする！こと。

２　活動地域の現状

豊かな森林資源と清流を武器に、山、川、湖などの多様な自然が楽しめる飯能。ここでは、2004 年以降、環境省主導で進められるエコツーリズムでの地域資源活用が多くみられ、全国的に注目を集めてきた。また、近年ではキャンプをはじめとしたアウトドア活動への関心が高まり、中山間地域の観光リソースを活用した取り組みが増えつつある。さらに 2020 年のコロナショック以降、健康志向、体験志向が従来以上に高まってきている。しかし一方で健康増進に必須の「スポーツ」を意識した地域での取り組みは多いとはいえない。そこで、本学スポーツ科学部の学生たちが主体となり、飯能市のもつ里山資源を活用した「体験」を提供するアウトドア・スポーツ・ツーリズムを盛り上げる活動を進めていきたいと考え、本活動に取り組む。

３　活動内容

・キャンプツアーの企画運営とそのブラッシュアップ
・地域産品を活用した健康に良いプロダクトの開発のための 6 次産業化（ブルーベリー、ジビエ活用）。売り方調査と試作や料理教室の実施、キッチンカーへのチャレンジへの模索。
・地域のイベント等への参加。

４　成果

１）はじめてのプチサバイバル

飯能市エコツーリズム推進協議会が発行する「飯能エコツアー」のプログラムとしてエコツアー「はじめてのプチサバイバル」を地元の一般社団法人里山こらぼと連携して実施。8 回のツアーで参加者 45 名。満足度の高いものとなった。

２）お散歩マーケット

春と秋に実施されたお散歩マーケットへスタッフ参加した。当日のほか、一週間前に行われた山道の整備も地元の方々と一緒に行った。10 年以上継続して協働しており、地域の学生たちへの信頼度は高いものとなっている。春は、地元産ブルーベリージャムとウメジャム、ユズジャムをトッピングしたアイスを提供した。当日は天気が良かったこともあり、準備した 100 食はすぐに完売となった。秋はシカのジビエシチューの販売を行った。80 食ほどはすぐに売り切れた。

３）駿輝祭での出店

2024 年 10 月 26，27 日に実施の大学の学園祭である駿輝祭では、平井ゼミの中山間ふるさと支援隊活動の紹介展示と地域産品の利活用を進めるために、出店をした。

3 年生はジビエの活用のために、地元猟友会や地元のレストランと連携し、シカ肉のジビエシチューを、4 年生は、地元の農家、ストーブ販売店と連携し、地域のウリのサツマイモで焼いもを販売した。どちらも盛況で、完売した。

４）イベント等への協力　①TOYOTA SOCIAL FES!!環境教育のスタッフ参加
②入間漁協とブラックバス駆除
③飯能祭りへの協力
④SDSU 研修運営スタッフ
⑤焚き火フェス

５）カフェトライアル

学内で地域産品を活用したカフェを運営すべく、臨時出店等でトライアルを重ねている。4 月からは学内にカフェをオープンする予定である。これに伴い、地域産品を活用したスイーツの開発を進めている。2 月 19 日に市内の NPO あおーら（就労継続支援事業所虹）で試作を行った。

５　課題

①野生鳥獣：6 次産業化へ向けて動き出したものの、衛生面などクリアすべき課題が多い。しっかりと知識をつけて、動かしたい。

②この地域「ならでは、でしか」のプログラムをつくる：地域資源を活用しつつ、どのように磨きをかけていくかが課題。

③地域の方と協働する機会を増やす：さらに地域と積極的にかかわりを持つべき。

６　次年度以降の計画

①　アウトドア・スポーツ・ツーリズムの企画・運営

現状の運営形態や環境への負荷などを考慮すると、参加者は 50 名前後が妥当かと思われるので現状維持で継続していく。一方で、来年度は入間川を活用したプログラムの企画・試行を検討する。

②　地域産品を活用した健康に良いプロダクトの開発

カフェトライアルが順調に進んでいるので、地域農産品を意識したプロダクトを地域団体と一緒に作り、カフェをオープンする。

画像

左から、プチサバイバルキャンプ川と山、地域の方とお散歩マーケット準備、ジビエシチュー、カフェトライアル